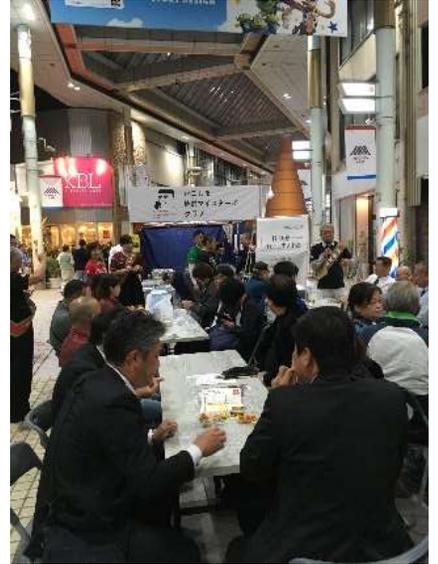


令和2年度「NPO共生・協働・かごしま推進事業」実施結果

(事業名)鹿児島県の特性(焼酎)を活かした新たなコミュニティ形成モデル事業

実施主体

(団体名)NPO法人 かごしま焼酎マイスターズクラブ
(担当課名)観光・文化スポーツ部 かごしまPR課



背景

本格焼酎は、農業・酒販業・料飲業等関連産業が多く、本県の主要産業となっている。本県には、焼酎の蔵元が113あり、全国で最も多い。また、製造場においては、43市町村のうち37市町村と多くの市町村に存在しているところ。

地域課題

県内各コミュニティにおいて、昔から焼酎との密接な関係があり、従来ある焼酎文化や焼酎との関わりを再認識することで、焼酎を活かした新たなコミュニティの在り方を模索し、地域活性化に活かす必要がある。

事業のねらい

日本で唯一、焼酎の神を祀る南さつま市「竹屋神社」や地元集落、さらに地元7蔵元を巻き込んで、焼酎神にちなんだ焼酎を開発・販売し、利益の一部を集落に還元する体制を構築することで、継続的な焼酎の振興と地域活性化のモデルケースを創出する。

事業概要

- 1 焼酎神社「竹屋神社」パンフレット作成・広報
竹屋神社にまつわる神話や焼酎との関係性などについて、説明文に加え、わかりやすいイラストや写真を交えたパンフレットを作成。
- 2 焼酎七蔵セットのネーミング公募
令和2年9月から約1ヶ月間かけて、南さつま市観光協会のHPを通じて、焼酎七蔵セットのネーミング公募を実施。
- 3 焼酎七蔵セットの商品開発
地元七蔵協議会や卸酒販店等の協力を得て、焼酎7本セットの商品開発について検討・協議を行う。
- 4 焼酎神竹屋祭りの開催
竹屋神社関係者や集落と連携し、これまでの成果や七蔵セット商品のお披露目会を行うとともに、焼酎神社誕生にまつわるミュージカルも併せて実施。



成果

- 1 焼酎神社「竹屋神社」パンフレット作成・広報
竹屋神社パンフレットを1万部作成し、鹿児島県酒造組合をはじめ関係団体等を通じて広報を実施。
- 2 焼酎七蔵セットのネーミング公募
全国から133人、358件の応募があり、最終的には「焼酎神竹屋」を選定し、商標登録出願も実施。
- 3 焼酎七蔵セットの商品開発
七蔵共同開発ブランドである七蔵セット「焼酎神竹屋」を3月23日より発売開始。(1,000セット限定)
また、売上の一部を集落に寄付する価格設定も実施。
- 4 焼酎神竹屋祭りの開催
令和3年2月20日(土)に、今回初めてとなる「第1回焼酎神竹屋祭り」を、コロナ感染防止対策を講じた上で、地元集落をはじめ関係団体出席のもと開催。



協働の状況

- かがしまPR課(事業実施主体)
- NPO法人かがしま焼酎マイスターズクラブ(事業実施主体・地元との調整)
- 七蔵協議会(企画参画・商品開発)
- 本坊商店, 南九州酒販(商品開発の協力)
- 竹屋神社(企画参画・イベントの場所提供)
- 南さつま市(企画参画・会議室提供)
- 南さつま市観光協会(ネーミング公募協力)

今後の取組

- 新たに開発した焼酎7本セットの更なる販路拡大を図る。
- また、今回の新たなコミュニティ形成モデルが県内の他地域へ波及することを期待する。



協働事業の感想

団体からの声

3年前に「焼酎神」が奉斎され、日本で唯一焼酎神社としてもPRしている「竹屋(たかや)神社」を中心に南さつま市と連携しながら今後とも本格焼酎の文化を伝承するとともに世界に焼酎の情報を発信していきたい。

担当課からの声

NPO法人を中心に地域や企業も含めた協働事業によって、従来の地域活性化に加え、形に見える成果(商品化や販売, 集落への還元)が出来たことは大変大きい。

今回の取組が、他地域の地域活性化のモデルケースとなることに期待したい。